美作市立美作第一小学校

# 学校だより

令和6年11月1日

**ふるさとに誇りをもち 心豊かで たくましく生きる児童の育成**

**～笑顔いっぱい 夢いっぱい ともに学び ともに歩む～**

文責 学校長 延東省典

## 不登校 34 万人（小学生は 13 万 3 千人）

11 月 1 日付けのニュースの見出しです。小学生の不登校者数は 5 年前の 5 倍とのこと。教育に携わる者として、心痛む数字です。

私たち大人は、この数字をどのように受け止めなくてはならないのでしょうか。

社会が悪い、親が悪い、学校が悪い、誰かが悪い、子どもに根性がない。誰かを悪者にしていくら語っても、そこには進歩も成長もありません。

現実を受け止め、子どもたちの声を聴き、子どもたちと語り合い、互いに変化を恐れず、社会も学校も家庭も大胆に変わっていく必要があるように感じています。

人間は経験則の中で生きています。それは、教育という仕事に携わる私たちも、保護者、地域の方々もみな同じです。経験則の中で物事を考えると、社会の変化に一番大きく影響を受け、さらにその変化の波を一番大きく受けながら成長している子どもたちとの間に大きなミゾが生まれるのは必然でしょう。だからこそ、私たち大人も経験則だけではなく、考えながら学び、自ら成長（変化）していくことを求めていかなければなりません。

美作第一小学校長として最も大切にしたいことは、「学校おもしろい！」という子どもの声が聞こえる場所にしたいということです。さらに、誰かがではなく、誰もが「おもしろい」と感じる場所でなくてはなりません。

この「おもしろい」という言葉の意味合いを、「fun」・・楽しい　から　「interesting」・・興味深い に変化させていくこと、それこそが学校の深化だと捉えています。本来人間を含め動物は、好奇心・興味があることから学ぶ本能をもっています。その好奇心を刺激し、興味をもたせる学校教育を職員一同でめざしています。

そのための 1 つの柱が、「子どもたちにもっと主体性をもたせ、子どもたちが自分事として考え行動し、成功も失敗も受け止めながら、それをふり返ることで学んだ事を次に活かす」というサイクルです。ここに前回お知らせした「おんたろう」がつながっているのです。

では、保護者の方や地域はどのように考え、学び、成長（変化）していけばいいのでしょうか。答えがあれば簡単ですが、多分答えはないでしょう。あるとするなら、それは「考えるしかない」ということだと思います。

忘れてはならないこと。それは、子どもが中心でなくてはならないと言うことです。子どもは個性をもった一人の立派な個人であり、人格を有しています。つまり、当たり前ですが、いくら親子でも別人なのです。親の思い通りに行かないのが普通です。

PTA 総会でもお願いをしましたが、子どもには子どもの社会があります。命に関わるような場合やどうしても大人の介入が必要な場合があることは事実です。しかし、たいがいの場合、子どもの社会に大人が介入してよい結果につながることは少ないと私は考えています。

大人ができることは、子どもの思いを受容し、子どもに考えるための時間とヒント、ときには相手の気持ちを思いやることを忘れないといったような大切な方向性を示してやりながら、自分が考えたことに責任と自信をもって、自分で次の行動を起こすことができるエネルギーと勇気を与えてやることくらいなのではないでしょうか。

こうした話をぜひみなさんと語り合える場があるといいなと考えています。

## 行事は手段であり、目的ではない

運動会、海事研修、日々の校外学習など 10 月には多くの学校行事がありました。運動会をはじめ、保護者の方々や地域の方々には、準備や子どもたちへのあたたかい拍手など大変お力添えをいただきました。ありがとうございました。

この 11 月 16 日（土）には、学習発表会を予定しています。ぜひ都合をつけていただきご来校ください。当日の見栄えも気になるところではありますが、本校が本当に大切にしているのは、この行事を通して子どもたちが何を考え、学び、成長したかという過程の中にこそあります。当日だけをみれば気になるところはいろいろあるかも知れませんが、ぜひ今日までよくがんばった！という視点で応援していただけると幸いです。